

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### 好奇心を育む／学校法人支倉学園めるへの森幼稚園

心動かす魅力的な対象に出合った子どもたちは、好奇心いっぱいに対象に関わり、さらに、興味を広げたり深めたりしていきます。子どもたちの好奇心を受け止め、育むためにどのようなことを大切にしていますか？園に隣接する公園を活かし、子どもたちが環境の中で見つけた驚き・不思議・感動を大切に、好奇心を支え育てている園の実践をご紹介します。



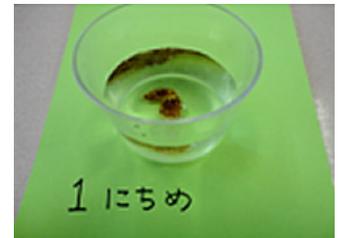
### ○ 「水に入れたら樹液はどうなる!？」 / 4歳児

園に隣接する公園（通称:風の子公園）は、50種類以上の自然木と植樹林に囲まれた森のようなところである。そこに通って森を探索する4歳児は、「樹液」という新しい存在を発見、興味をもった。繰り返し通う中で、樹液を見たり、臭いをかいだり、舐めたり、触ったり、樹液地図を作ったりしながら、子どもたちは樹液への興味を深めていった。

#### ✦ 1日目

ある日（6月頃）のこと、樹液に水を入れてみたいと言う。

保育者：「入れたらどうなると思う？」  
子ども：「シュワシュワサイダーみたいになる」  
子ども：「溶けないと思う」 子ども：「硬いのはアイスクリームになる」  
子ども：「とろとろになると思う」 子ども：「溶けると思う」  
子ども：「浮かぶかな？」 子ども：「メタメタになると思う」  
子ども：「ちょっと濃い紫になると思う」 子ども：「硬くなる」  
保育者：「いろいろ考えたね。じゃ入れてみようか」  
子ども：「どうなるかな」



樹液を水に入れてみる…。

子ども：「始めシュワシュワしてた!!」  
子ども：「沈んだね」 子ども：「溶けた？」 子ども：「何にも変わらない？」  
子ども：「でもちょっとキラキラしてるよ」

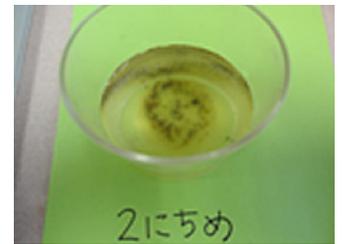
水を入れたカップに樹液を入れるが、あまり変化は見られない。しかし、子どもたちはどうなるか頭を突き合わせてカップを覗いている。

#### ✦ 翌日

子ども：「樹液を入れた水がヌルヌルしてる!!」  
子ども：「ツルツルだよ」  
子ども：「溶けて、水が茶色」  
子ども：「臭っさ——い!!なんでかな？」  
子ども：「水に入れたから臭いってことだよ」  
子ども：「だから雨の後の風の子の樹液は臭かったんじゃない？」

子ども：「濡れたから？」 子ども：「絶対そうだよ!!水に濡れると臭いんだ！」

水に入れてみたいという子どもの意見を取り入れたことで、子どもたち同士で新しい発見をする。



#### ✿ 数日後

子ども：「腐っさったー!!」

子ども：「前より臭ーい!!」

子ども：「もう嫌だから洗おう」

子ども：「そうだね！新しいの作ろう!!」

強烈な臭いのするカップを洗って新しいものをまた作り始める。それを何日も何回も繰り返していた。



#### ✿ 考察

「樹液を水に入れたらどうなるのか」という好奇心から、子どもの想像力がさらに広がり、観察する目も育ってきているように思われる。水に入れてみると樹液が臭くなったことから、「だから雨が降った後の樹液は臭いんだ」と「水に濡れると臭い」ということに結び付き、実際に試してみることで、分かったのではないかと考える。子どもたちが実際に実験を行なう前に、保育者が予想を立てられるような声をかけたことで、子どもたちの好奇心、想像が膨らみ、実験の結果にも興味をもてたのではないかとと思われる。観察し予想を立てるところから、実際に試してその予想がどうだったのか、子どもたちが自ら探ろうとする姿が増えてきているようだ。



無断転載を禁ず。引用する場合は下記を必ず明記願います。

「(C)公益財団法人 ソニー教育財団

ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」